

## 学位論文を探す

博士号を得るために大学や研究機関に提出される博士学位論文は、特に科学技術分野においては質の高い研究資料として評価されています。

学位論文は通常の流通経路に乗らないため、入手が難しい資料ですが、探しやすいためのツールとして以下のデータベースがあります。また、学位授与大学のウェブサイトを探すのも有効な方法の1つです。

「学位論文」とは→p.6 参照

## ■ 日本国内の学位論文

### 東京大学学位論文データベース

<http://gakui.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>



東京大学で授与された博士論文の題名、著者名、要旨などを収録したデータベース。論文原文の閲覧については著者の所属部署の図書館・室にお問い合わせください。

### 博士論文書誌データベース

<http://dbr.nii.ac.jp/>

日本の国公立大学等で授与された博士号の学位論文について、題名、著者名、学位の種類などを収録したデータベース。国立情報学研究所が作成する「学術研究データベース・リポジトリ」の中のコンテンツとして提供されています。

### NDL-OPAC

(p.17 参照)

国立国会図書館（関西館）では大正12年9月以降の博士論文を所蔵していますが、1968年以降に受け入れた分について、NDL-OPACで検索することができます。

## ■ 海外の学位論文

### ProQuest Dissertation and Theses A&I(PQDT)

【学内限定】 

GACoS (p.25 参照) からアクセスしてください

米国、カナダを中心とした博士論文・修士論文を収録するデータベース。

## 新聞記事を探す

あるテーマに関する最新トピックのチェック、あるいは過去の事実確認、人物に関係した資料収集などを行う場合は、新聞が有効な情報源となります。

「新聞記事」とは→p.6 参照

### 朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」

【学内限定】

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/utoonly/goasahi.html>



朝日新聞記事（本紙・地方版）、「AERA」、「週刊朝日」の全文記事を検索・閲覧できるデータベース。

### LexisNexis Academic 【学内限定】

<http://www.lexisnexis.com/us/inacademic>  
世界各国のニュース（新聞、雑誌、通信記事）、ビジネス情報（ビジネス誌、企業情報、SEC 関連書類）、法律情報（米国判例、法律、規則、ローレビュー、米国特許）などを収録した総合情報データベース。

### 統計データを探す

レポートや論文の論拠として統計データの数値を活用すると説得力が高まります。多数の機関から様々な種類の統計が発行されていますが、最近では多くのデータが Web 上に公開されています。

「統計」とは→p.6 参照

### 政府統計の総合窓口 (e-Stat)

<http://e-stat.go.jp/>

政府統計の総合窓口サイト。民間統計や海外の統計機関へのリンクもあります。

### SourceOECD

【学内限定】

<http://www.sourceoecd.org/>

OECD（経済協力開発機構）の各種出版物を収録するデータベース。全文表示可能です。単行書、雑誌を中心に、数種の統計データを冊子版より早く入手する事ができます。

### データベース選びの近道

この章で紹介した学術データベースは、東京大学で利用できる電子的ツールの中のほんの一部に過ぎません。他にも多数のデータベース類を利用できる環境が整っています。しかし、多数のツールの中から、自分の目的に最適なものを選択することは決して簡単なことではありません。

データベース選択で迷ったときには、ぜひ **GACoS** にアクセスしてみてください。**GACoS** は電子的な学術情報へのゲートウェイです。東京大学で利用できる学術データベース類がほぼすべて集めてあり、資料タイプ、主題分野、データベース名などから、検索できます。目的にあったデータベースを探すには大変便利なサイトです。

また、データベース講習会の情報や情報リテラシーに関する Web 教材など（p.36～37 参照）も掲載しています。ぜひブックマークなどに登録して、日常的な情報検索ツールとして活用してください。

### GACoS

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/>



### ■ 学外からデータベースを利用するには？



がついているデータベースは、ECCS アカウントをお持ちであれば、SSL-VPN Gateway サービスにより自宅など学外からでも利用可能です。詳細は、学内から <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/sslvpn/service.html> のページをご覧ください。